

○ 質問番号 1 番 市長公室関係

議席番号 3 番 富士見中学校 大淵 英恵 議員

私立高校の誘致について（市長答弁）

大淵英恵議員さんの「私立高校の誘致について」にお答えします。

熊谷市は、2度の合併を行って、県北初の20万都市になりましたので、今より自立性の高い権限を持つ特例市へ移行するための準備をしています。

そういった中で、今日は、午前中に、上田埼玉県知事から、総務省への手続きに必要な埼玉県知事の同意書をいただけてきたところです。

熊谷市が、この特例市にふさわしい、魅力あるまちとして発展し続けるためには、これまで以上に、都市機能を強化させるとともに、住民サービスの充実を図っていかねばなりません。

大淵さんから提案いただいた私立高校についても、そういった都市機能の一つであると考えています。

熊谷市では、これまで、市立女子高校跡地の活用策として、いくつかの私立大学との間で附属中学・高校の一貫校誘致の話し合いを行ってまいりました。

残念ながら、開校決定には至りませんでした。これからも、私立学校の誘致に取り組み、皆さんや皆さんの後輩のために、高校受験の選択肢が広がるように努力していきたいと考えています。

○ 質問番号 2 番 総合政策部関係（市長答弁）

関根千智議員さん、渡辺真琳議員さん、木村大輝議員さん、ショルツ洋司議員さん、大浦礼士議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、副市長、担当部長からお答えします。

昨年の 8 月、74 年ぶりに国内最高気温を更新し、熊谷市は、名実ともに日本一暑いまちとなりました。また、熊谷市は、年間の快晴日数が、日本一でもあります。

そこで始めに、関根さんの「あっぱれ！熊谷流プロジェクトについて」、渡辺さんの「暑さ対策について」、木村さんの「私たちのできる暑さ対策について」、いずれも夏の暑さに関連する質問ですが、熊谷市のこうした気象の特徴に着目し、「市民の健康対策」、「地球温暖化対策」、「資源活用策」を柱に、今年度から重点的に取り組んでいるのが、「あっぱれ！熊谷流」プロジェクトです。

このプロジェクトでは、23 本の事業を行っていますが、全国的にも先進的な取り組みであり、新聞・テレビなどで、大きく報道されました。

代表的な事業としては、日本気象協会と共同開発した、日本で初めてとなる「熱中症予防情報発信事業」、皆さんにも御協力いただいた「学校 花 緑 いっぱい事業」、少年熱中大使の任命など夏の暑さを活用して、熊谷市を PR する「あついで！熊谷事業」などがあります。

次に、ショルツさんの「ゆうゆうバスひまわり号の運行改善について」ですが、ゆうゆうバスを始めとする公共交通の充実は、環境対策、高齢社会対策としても、とても重要なことです。熊谷市では現在、ひまわり号を始め、さくら号、ムサシトミヨ号、グライダー号の運行補助を行っています。様々な課題はありますが、それを乗り越えて、充実していきたいと考えています。

次に、大浦さんの「住民税の使途について」ですが、現在、市町村独自の取り組みが、円滑に実施できるよう、国から市町村に権限を移す、地方分権が進められています。

国は、地方への財源移譲の手段として、国の税金である所得税を減らし地方の税金である住民税を増やしました。私は、この財源を活用し、市民皆さんと一緒に策定した、まちづくりの最上位計画である「熊谷市総合振興計画」を着実に実行するとともに、最少の経費で最大の効果が上げられるよう、また、多くの市民の皆さんの期待に応えられるよう、これからも頑張っていきます。

議席番号 8 番 熊谷東中学校 関根 千智 議員

「あっぱれ！熊谷流」プロジェクトについて（部長答弁）

関根千智議員さんの「あっぱれ！熊谷流プロジェクトについて」にお答えします。

このプロジェクトは、基本となる 3 つの柱があり、23 の事業に取り組んでいます。3 つの柱とは、市民の健康対策、地球温暖化対策、そして、地域資源の活用策です。

その中の主な事業を紹介します。まず「冷却ミスト事業」ですが、これは全国の自治体では、熊谷市が初めて取り組んだものです。熊谷駅に設置した機械から人工的に霧(ミスト)を発生させ、気化熱を利用して周囲の気温を下げ、市民や観光客に涼しさを提供する事業です。

また「熱中症予防情報発信事業」では、登録のあった携帯電話にメールを配信し、熱中症に注意するよう呼びかけます。学校や保育所では、草花を育てるなど緑化によって、過ごしやすい生活環境をつくる「花、緑いっぱい事業」があります。熊谷東中学校で取り組んでいるゴーヤのカーテンも「あっぱれ！熊谷流」のひとつということであり、関根さんもこのプロジェクトに参加いただいたこととなります。

また、プロジェクトを内外に宣伝し、PRすることも熊谷市の大切な事業であると考え、市ではFM放送のナックファイブや市のホームページで詳しく紹介しています。

熊谷市民を暑さから守り、熊谷市を活性化させる事業として、これからも継続していきたいと考えています。

議席番号12番 大麻生中学校 渡辺 真琳 議員

暑さ対策について（部長答弁）

渡辺真琳議員さんの「暑さ対策について」にお答えします。

今年も、熊谷の夏の暑さは様々なメディアを通じて、大きく報道されました。しかし、その内容は、昨年と今年では大きく異なることに気づかれたかもしれません。昨年は国内最高気温を記録したことを中心に「熊谷は暑い」という内容であったのに対し、今年は、熊谷市が「その暑さ」に向き合い「どういう対策をとったのか」という内容だったと思います。

今年の対策として取り組んだ「あっぱれ！熊谷流プロジェクト」には、暑さ対策として、市民の健康を守るための熱中症予防情報発信事業や、暑さを和らげるために、アスファルトに特殊な塗料を塗る遮熱性舗装事業、そして、学校や市の施設を緑化し、涼しく過ごすための花・緑いっぱい事業や壁面緑化事業など、様々な事業があります。

また、一方では気持ちの熱さや人情の厚さなどと合わせ、街の活性化を図るために、かき氷「雪くま」を中心とした「あついぞ！熊谷」事業に取り組んで4年目になります。熊谷市の暑さは、良くも悪くも他の自治体に真似できない熊谷の「特徴」だと考えています。

これからも夏の暑さを街の活性化につなげる取り組みや、夏の暑さに対応する先進的な取り組みを積極的に進めていきたいと考えています。

議席番号13番 中条中学校 木村 大輝 議員

私たちができる暑さ対策について（部長答弁）

木村大輝議員さんの「私たちができる暑さ対策について」にお答えします。

熊谷市の暑さの原因の一つには「ヒートアイランド現象」があるといわれています。ヒートアイランド現象は、車やエアコンを使うなど、普段の生活

の中から排出される熱や、太陽で熱せられたアスファルトの熱などが原因となっています。ヒートアイランド対策としては水や森を大切にし、ガソリンや電気の無駄遣いをしないなど、普段の生活の中でどなたでも取り組めることが多いと思います。道路などへ打ち水をすることも効果的です。このほかにも色々な対策があると思います。木村さん、ぜひ学校や家庭で話し合っ、いただき新しいアイデアが生まれたら市へ提案したり、仲間と一緒に取り組んでみたりしてください。あっぱれ！熊谷流でも、皆さんからの新鮮でユニークな提案を待っています。

さて、これからのプロジェクトの中には、市民皆様が中心となって取り組む「熊谷 100 年の森づくり事業」があります。この事業は、市内の小中学生や協力団体に参加を呼びかけ、熊谷運動公園の多目的広場に約 5 0 0 0 本の様々な種類の苗木を植え、地域の自然環境の中で森を育てようとする事業です。11 月 30 日（日曜日）に植樹祭を予定していますので、ぜひ参加していただきたいと思います。

議席番号 26 番 大里中学校 ショルツ 洋司 議員

ゆうゆうバス「ひまわり号」の運行改善について（部長答弁）

ショルツ洋司議員さんの「ゆうゆうバス「ひまわり号」の運行改善について」にお答えします。

熊谷市ゆうゆうバスは、市内の交通不便地域のみなさんや高齢者や障害者のみなさんの交通手段として利用いただくとともに、公共施設利用者の利便性の向上を図るため、3 路線、計 5 台で運行しています。荒川の北側では、さくら号が 1 日 4 便、グライダー号、ムサシトミヨ号が 1 日各 5 便で毎日運行し、平成 19 年度は 80,074 人が利用しました。路線バスが少ない大里地区と熊谷駅を結ぶひまわり号は、2 台で 1 日 24 便運行し、19 年度は 74,604 人が利用しました。

ゆうゆうバスの利用形態がもっと良くなるよう、運行ルートの見直しやバス停を増やしたりしていますが、ひまわり号の場合、1 台あたりの平均で、年間約 700 万円の赤字で、熊谷市からバス会社に補助しているのが現状です。

このため、バスを増やしたり、急行バスや大型バスを運行させるのは、難しいと考えています。これからの高齢社会や地球温暖化防止のためにも、公共交通機関の役割は益々重要となります。どうすれば、みなさんに便利に利用してもらい、赤字を減らせるのか研究を続けたいと考えています。

議席番号 20 番 三尻中学校 大浦 礼士 議員

住民税の使途について（副市長答弁）

大浦礼士議員さんの「住民税の使途について」にお答えします。

国、県、市、それぞれの役割を見直し、「地方にできることは地方に」という考えのもと、それに見合った権限と財源を分散するために、1.国庫補助負担金の改革、2.税源移譲、3.地方交付税の見直しの 3 つを一体として行なう「三位一体の改革」というものが進められています。

この中の2点目の税源移譲とは、国の税金の一部を地方へ移すことで、国全体として地方分権を進めるために行なったことによるものです。このようなことから市や県に納める住民税は、税額を決めるもととなる税率が改正されたため、平成19年度から増額となりました。その代わり、国へ納める所得税が、減額となりましたので、税額は、所得税と住民税を加えた全体としてみると、ほぼ同じ額となっています。

熊谷市から見ますと、熊谷市に入る税金が増えたことで、平成18年度に比べると平成19年度は、市税全体で約24億円増額となっています。その一方で、国へ納める税金が減ったことで、国から市へ交付される補助金や地方交付税などが、減額となってしまいましたので、熊谷市全体の収入としては、大きな変化はありません。しかし、国によって使い道が限定されたお金が減り、市が自由に使えるお金が増えたことから、市民皆様の要望に応える、特色ある事業を進めていきたいと考えています。

また、市民の皆様が納めていただいた税金の使い道として、大浦さんたちの中学生生活が楽しく、有意義に過ごせるように、校舎や体育館の改築・改修、あるいは校庭の整備、パソコンの配置や図書館の空調設備の設置や図書購入などを行なっています。これら中学校の教育費に使われる額は、中学生1人あたり、19年度の予算では、約9万1千円、20年度は約10万4千円と若干ではありますが、増額となっています。

○ 質問番号3番 市民部関係（市長答弁）

加藤正樹議員さん、平井愛実議員さん、西美樹議員さん、新井秀都議員さんの質問に私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

始めに、加藤さんの「不審者対策について」は、熊谷市では皆さんの下校時間に合わせ、通称青パトと呼ばれる防犯パトロール車で巡回をするほか、不審者情報が入った時は、素早く防災行政無線や防犯メールでのお知らせや熊谷警察署へパトロールの強化を依頼しています。また、自治会を中心とした自主防犯パトロールや児童・生徒の見守り活動を含め、地域の防犯活動に積極的に取り組んでいただいています。これらの効果は、市民の意識の向上と共に高まりつつあり、不審者対策としては、犯罪抑止に効果的に働いています。

次に、平井さんの「街灯の設置について」ですが、熊谷市では、皆さんが安心して暮らせる街づくりを目指して様々な取組を行っていますが、犯罪防止を目的に必要な箇所に防犯カメラや防犯灯を設置しています。防犯灯の設置は、主に、地域の自治会にお願いをし、設置費用に対し補助金を交付する方法で支援をしていますので、保護者や地元自治会と良く相談をしてください。

次に、西さんからの「植栽ボランティア等の活動PRについて」は、熊谷市でも花植えを通じて自分たちが住んでいる地域をきれいにするための活動をしている人達が増えています。こうした市民の活動を、行政として広くPRし、活動の輪を広げてゆくことは大切なことと考えています。

次に、新井さんの「水害対策について」ですが、熊谷市は、荒川、利根川の大きな河川が流れる恵みの多い都市ですが、その反面、台風等による大雨で一度氾濫すると、浸水が広範囲に及ぶため、水害対策が大変重要となります。

水害対策については、河川管理をしている国に対し、引き続き堤防強化の働きかけをしてゆくと共に、水害に強い熊谷市にするために、ハザードマップも活用して、市民の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えています。

議席番号1番 荒川中学校 加藤 正樹 議員

不審者対策について（部長答弁）

加藤正樹議員さんの「不審者対策について」にお答えします。

熊谷市では、不審者対策として、皆さんの下校時間に合わせ、通称「青パト」と呼ばれる防犯パトロール車で巡回をしています。

また、不審者の出没情報があった場合は、防災行政無線での放送や防犯メールでお知らせをするほか、熊谷警察署へパトロールの強化をお願いするなどの対策をとっております。

その他自治会や小学校区連絡会を中心に、自主防犯パトロール団体が250以上設立され、児童・生徒の見守り活動をはじめ、地域の防犯活動に積極的に取り組んでいただいております。これらの取組みは、熊谷警察署では、

「市民意識が年々高まってきているので、不審者対策として効果的である。」との見解でした。

埼玉県内では、不審者による被害の75%が、一人でいる時に発生していますので、不審者から身を守る対策は、普段からできる限り一人行動をとらないで、友達同士での登下校を心がけてください。

万一、不審者に出会ってしまった場合は、決して近寄らないこと、危害を加えられそうになったら、防犯ブザーを鳴らす、「子ども110番の家」などに逃げ込む、110番通報をする等の行動をとってください。暗くなると危険は場所などは、できる限り避けて、自分に降りかかる危険を未然に防ぐことが、不審者から身を守るために、一番大切な事と思います。

議席番号34番 江南中学校 平井 愛実 議員 街灯の設置について（部長答弁）

平井愛実美議員さんの「街灯の設置について」にお答えします。

熊谷市は、皆さんが安心して暮らせるまちづくりをめざして様々な取組をしております。

犯罪の防止を目的に設置する街灯は防犯灯と呼んでいますが、防犯灯の設置もその取り組みの一つです。本市には、現在約1万4千の防犯灯が設置されており、設置にあたっては、近隣の生活環境を良く知っている地域の自治会にお願いをし、その設置費用の2分の1を限度に市が補助金を交付して、防犯灯の設置を支援しております。また、通学路で沿線に家がなく、自治会で設置ができないような場所については、市で設置をする場合もあります。

登下校時に暗くて不審者が出る恐れのある場所等は、できる限り無くす必要がありますので、保護者や地域の自治会の班長さん達を通して防犯灯の設置について、相談をしてください。

平井さんをはじめ、皆さんが安心して登下校できる環境ができるよう、地域の皆さんに帽子、腕章、ベスト、誘導灯、防犯ステッカーなどを支給して、自主防犯パトロールの推進を支援しています。また、市内の巡回機会の多い会社やJA等と防犯のまちづくり協定を結ぶと共に、更に、防犯対策を拡充し不審者等への対策を推進していきたいと考えております。

議席番号10番 玉井中学校 西 美樹 議員 植栽ボランティア等の活動PRについて（部長答弁）

西美樹議員さんの「植栽ボランティア等の活動PRについて」にお答えします。熊谷市では、フラワーキーパーというボランティアの人たちが、春と秋の年2回、市街地にありますコミュニティ広場や、籠原駅南口の花壇などに季節の花を植えています。

また、市街地の花植えには、富士見中学校の生徒の皆さんも参加しています。このほか、自治会や校区連絡会、まちをきれいにしたいという人たちのグループなどが、地域の環境美化の取り組みとして、さまざまな場所で植栽をされています。それぞれの団体が独自の活動をしていることから、正確な

団体数は把握していませんが、相当な数の団体が活動されているものと思われます。

また、フラワーキーパー事業につきましては、熊谷市のホームページと市報でお知らせしています。そのほか市民活動団体を紹介する冊子の中で、地域の美化に取り組む団体や活動内容をお知らせしています。

多くの人たちの参加と協力によりきれいな環境が整えられ、このまちに住む私たちが、花々などを楽しむことができることに、感謝するとともに、こうした市民の活動が、豊かな「まちづくり」を進める上で、とても大切なことだと考えています。玉井中の「花をさかそう運動」は、豊かなまちづくりにつながるのだと思いますので、きれいな花がいっぱい咲くことを期待しています。

議席番号 11 番 大麻生中学校 新井 秀都 議員

水害対策について（部長答弁）

新井秀都議員さんの「水害対策について」にお答えします。

記録的な大雨による災害が全国各地で起き、逃げ遅れ等により多くの犠牲者が出ています。荒川では、現在の堤防が整備されてからはん濫は発生していませんが、これからも起きないという保証はありません。

そこで熊谷市では、市内を流れる荒川などがはん濫した場合の浸水範囲や深さ、避難所や避難にあたってあらかじめ知っておいていただきたいこと等を掲載した洪水ハザードマップを作成して各世帯に配布したところです。熊谷市では、台風などの大雨の時には、荒川の水位や上流の雨の降り方等について情報を集めています。

荒川のはん濫が予想される時には、防災行政無線や市の広報車などで、浸水が予想される地域の皆さんに、避難するようお知らせするとともに、避難所となる小学校や中学校などの施設を開けておきますので、家族や地域の方と速やかに避難していただきたいと思います。

ハザードマップは、家族の皆さんでいつでも見られるようにしておき、避難にあたって注意する危険な場所の確認など、いざという時のために役立てていただきますようお願いいたします。

○ 質問番号4番 福祉部関係（市長答弁）

大沢直哉議員さん、鳥海早杜議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは副市長及び担当部長からお答えします。

大沢さんから、敬老会へ出席ができないお年寄りについて、思いやりのあるご意見をいただきました。

今年も、9月15日の敬老の日を中心に、市内各地域で敬老の行事が開催されました。

敬老会をはじめとする行事等に出かけることのできないお年寄りのみなさんが家に閉じこもることのないよう、地域の人々との交流が必要と考えています。

熊谷市では、お年寄りのみなさんがいつまでも、ご家庭で安心して過ごせるよう、様々な福祉施策を進めています。

大沢さんのように、やさしい気持ちを持ったハートフルなまちにしていきたいと思っています。

次に、鳥海さんには、こども医療費助成の拡大に伴う熊谷市の財政負担についてご心配をいただき、ありがとうございます。

今、少子化が進み、みなさんの中にも、一人っ子や2人きょうだいの人も多いと思います。この原因のひとつとして、子育てをするのに大きな負担や不安があると思います。

熊谷市では、お母さん方が、安心して子どもを生み、育てられる環境の整備に努めています。限られた財源を創意工夫し、多くのお母さん方から要望のあった、こども医療費の無料化の拡大に取り組みました。たくさんの方から、いろいろな所で感謝の言葉をいただいております。拡大して本当に良かったと思っています。これからも、子育て環境の充実を進め、子どもたちの元気な声や姿に満ちたまちづくりを目指したいと考えています。

議席番号9番 玉井中学校 大沢 直哉 議員

高齢者福祉について（部長答弁）

大沢直哉議員さんのご質問、「高齢者福祉について」にお答えします。

敬老の日は、長い間社会に尽くしていただいた高齢者をうやまい、長寿をお祝いする日とされ、大沢さんお住まいの玉井地区をはじめ、市内各地域で敬老会が盛大に開催されました。

熊谷市では、外出することのできないお年寄りの皆さんに、福祉サービスとして、日常生活に支障のないよう、ホームヘルパー等が家庭を訪問し、洗濯、掃除を始めとする身の回りのお世話を行うほか、昼食を自宅まで配達し、安否確認を行う配食サービスや入浴の介助を行う、訪問入浴サービスなどを実施しています。

また、民生委員等による地域での見守りや福祉ボランティアによる助け合いにより、思いやりのある地域福祉を目指しています。お年寄りの皆さんが、いつまでも安心してご家庭で暮らしていけるよう、これからもしっかり取り組んでいきたいと考えています。

議席番号18番 別府中学校 鳥海 早杜 議員

こども医療費の助成について（副市長答弁）

鳥海早杜議員さんの「こども医療費の助成について」にお答えします。

熊谷市では、今年6月から、こども医療費の通院にかかる助成の対象を、小学校入学前までから中学校卒業までに拡大しました。

中学校卒業までを対象としているのは、埼玉県内40市の中で、2市という状況です。対象年齢の拡大により、対象者は、約1万6000人増え、今年度は、年度途中からの実施ということで約2億円予算措置しましたが、年間では、3億円位と見込んでいます。

こども医療費の対象者の拡大は、鳥海さんも心配するように、熊谷市の財政に大きく影響しますが、それ以上に、子育てをする家庭を支援することが重要と考え、優先的に取り組みました。

熊谷市の予算の編成に当たりましては、創意工夫により、限られた財源を最大限に有効活用し、市民のニーズに合った事業に重点的に配分しています。

なお、熊谷市の財政は、財政状況を示す様々な指標からみても健全でありますので、鳥海さんも安心していただきたいと思えます。

○ 質問番号5番 環境部関係（市長答弁）

仲谷憂歌議員さん、岡田知樹議員さん、杉山沙也加議員さん、滝澤望美議員さん、代有純議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

まず、仲谷さん、岡田さん、杉山さんから地球温暖化対策に関する質問をいただきましたが、私たちは、これまで、科学技術等の進歩に伴い、今日の豊かで快適な暮らしを手に入れてきました。

しかし、この反面、経済活動や日常生活を通じて、CO₂などの温室効果ガスを排出し続けてきたことにより、地球温暖化が進み、海面の上昇、気候変動に伴う集中豪雨による河川の氾濫、生態系の変化をもたらすなど、私たちの生活にも大きな影響を及ぼしつつあります。

地球温暖化防止には、太陽光などの自然エネルギーの活用や自動車利用の抑制をはじめとする省エネルギーの推進など温室効果ガス排出量を削減するための行動を、市民、事業者、行政が一体となって取り組む必要があります。

こうした考え方を実現するため、今年度は、地球温暖化対策地域推進計画を策定することとしており、この計画を、積極的に推進していきたいと考えています。

次に、滝澤さん、代さんから資源のリサイクル及び分別式ごみ箱の設置について質問をいただきましたので、お答えします。

毎日の生活から発生するごみについても、市民一人ひとりが、従来のライフスタイルを見直し、再使用や再利用を実践するとともに、ごみ分別の徹底により、ごみの発生を抑制し、環境への負荷が少ない循環型社会を構築していかなければなりません。熊谷市は、これまでも、ごみの減量化対策などに取り組んできましたが、今年度は、廃棄物処理基本計画を策定し、より実効性

の高い施策を進めていきたいと考えています。

議席番号2番 荒川中学校 仲谷 憂歌 議員

自動車利用の抑制について（部長答弁）

仲谷憂歌議員さんの「自動車利用の抑制」について」にお答えします。

地球温暖化対策について、国は京都議定書に基づく、削減目標達成に向けて、様々な施策を行っています。しかし、現在の状況を見ますと、温室効果ガスの排出量は、やや増加しており、その削減目標を達成することが危ぶまれています。そうした中、CO₂排出量の多い自動車の利用を抑制することは、地球温暖化防止に大変有効な施策であると考えています。

現在、市役所では、自動車通勤職員を対象に毎月第一水曜日をノーカーデーとし、自動車にかえて、公共交通機関や自転車の利用を奨励し、実践するほか、市が主催するイベント等に参加される方には、公共交通機関等の利用を呼びかけています。

また、「自転車通行環境整備モデル地区」の指定を受け、一部の道路について、自転車と歩行者のスペースを分離して、自転車が安心して走れる環境の整備に取り組んでいます。自動車利用の抑制によるCO₂排出量削減の取り組みについては、行政だけでなく、市民、事業者が一体となって取り組むことにより、効果が発揮できるものと考えますので、その普及啓発に努めていきたいと考えています。

議席番号27番 妻沼東中学校 岡田 知樹 議員

地球温暖化対策について（部長答弁）

岡田知樹議員さんの「地球温暖化対策について」にお答えします。

熊谷市では、昨年度、新市として、新たに総合振興計画や環境基本計画を策定しました。その中で、地球温暖化対策やヒートアイランド対策を明確に位置づけ、事業の推進を図っています。

具体的な温暖化対策としては、新設の小中学校屋内運動場への太陽光発電システムの設置、住宅用太陽光発電システム設置への補助、天然ガス自動車の導入、ゴミ減量化の推進、市の事務事業におけるCO₂排出量の削減や市職員のノーカーデーの実践等に取り組んでいます。

次に、温暖化防止のための啓発事業としては、エコライフフェアの開催や市報、市議会だよりなどに、「みんなで止めよう温暖化チームマイナス6%」の表示をして、温暖化防止のための誰もが出来る行動を呼びかけています。

また、児童への環境教育の拡充を図るため全小学校への太陽光発電照明灯の設置や教育支援プログラム「キッズISO」に取り組み、学校や家庭でのCO₂削減に向けた意識啓発に努めています。

さらに、現在、市内で発生する温室効果ガスの排出量の削減等に向けて、温暖化対策地域推進計画の策定を進めています。温暖化防止対策は、私たち一人ひとりが常に環境に配慮する意識を持って行動することが求められていますので、これからも、市民、事業者の皆さんにご協力いただけるよう PR

に努めてまいりたいと考えています。

議席番号30番 妻沼西中学校 杉山 沙也加 議員

太陽光発電システムの普及について（部長答弁）

杉山沙也加議員さんの「太陽光発電システムの普及について」にお答えします。

熊谷市では、平成19年度から住宅に太陽光発電システムを設置する市民への補助制度を導入しております。

19年度は50件、本年度もすでに約40件の申請をいただいております。市民の太陽光発電システムへの関心の高さを改めて認識しています。

この太陽光発電システムは、発電された電気は、まず、家庭で利用し、家庭で使いきれない分は電力会社が買い取る仕組みになっています。家庭において節電に努め、より多くの電気を電力会社に売っていただくことができれば、それは地球温暖化防止にも大きな貢献になります。実際、太陽光発電を設置したことで、家庭内での節電意識がとて高くなったというお話も聞いています。これからは、そのような効果も補助制度と合わせて市民の皆さんにPRして、太陽光発電システムへの理解と普及に努めていきたいと考えています。

議席番号22番 奈良中学校 滝澤 望美 議員

資源リサイクルの啓発について（部長答弁）

滝澤望美議員さんの「資源リサイクルの啓発」についてお答えします。

現在、熊谷市では、家庭ごみを、燃えるごみ、燃えないもの、紙資源物、粗大ごみ、有害ごみ、の5種類に分けて、分別収集しています。収集後の燃えるごみは、衛生センターで焼却処分され、焼却灰は、太平洋セメント熊谷工場でセメントの材料になっています。燃えないもののうち、アルミカンやスチールカンは、自動車部品や鉄筋、鉄板等に、ビンは洗浄後、再利用されたり、破碎されたものも再度ビンの材料や、道路舗装の材料等になっています。紙資源物はダンボールや新聞紙、トイレットペーパー等に、リサイクルされています。ペットボトルのキャップは、一部の団体等で回収し、建築資材等になるとともに、世界の子供達を救うためのポリオワクチンの購入費にもなっています。

滝澤さんご質問の、回収されたものが、何に再利用されるかを知っていただくことは、さらなるごみの減量化を図る上で大切な事であると考えますので、市報やホームページを通じ、お知らせするなど、市民の方々への啓発を、一層推進していきたいと考えております。

議席番号24番 大幡中学校 代 有純 議員

分別式ごみ箱の設置について（部長答弁）

代有純議員さんの「分別式ごみ箱の設置について」にお答えします。

熊谷市では、以前は大きな公園には、ポイ捨てを防止するため、ごみ箱を

設置していましたが、ごみを減らし資源を有効活用するため、集積所での分別回収を開始する機会に、これらのごみ箱を撤去した経緯があります。

現在のごみ収集の基本的な考え方は、分別の徹底と再資源化の推進で、ごみは自治会などで定めた集積所に分別して出してもらい、また家庭以外の場所へ出たごみも持ち帰り、分別して集積所へ出してもらおうこととしています。新たにごみ箱を設置することにより、簡単にごみが捨てられるようになると、ごみの量が増えたり、危険物や有害ごみなどを捨てられたりという心配などもありますので、これからも現在の集積所で対応していきたいと考えています。

また、お祭などの特別な行事のときに出るごみについては、うちわ祭などのように主催者が自主的に仮設のごみ箱を設置している例もありますので、他の行事についても、臨時的なごみ箱の設置をお願いできないか、検討していきたいと考えています。

街を日頃からきれいに保ち、ごみを捨てにくくするためには、市民の皆さんの協力が必要です。ごみを持ち帰るのが当たり前という意識を皆さんに持ってもらえるよう、努力をしていきたいと思えます。

質問番号 6 番 都市整備部関係（市長答弁）

橋本静議員さん、中島はる名議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

今年度は、総合振興計画のリーディングプロジェクト「あつき はればれ熊谷流」として冷却ミストや、熱中症予防情報発信事業などを始めとする23の暑さ対策事業を行いました。このうち、冷ませ！熊谷の施策として小・中学校や保育所に花いっぱい事業を展開し、また行政センターや公民館などに緑のカーテンによる壁面緑化を行いました。これらの施策については、その事業の効果や継続性について、現在検証を進めているところです。

今回橋本さんからご提案の、学校に緑のカーテンを育てる「壁面緑化」や、中島さんからの屋上に植物を植える「屋上緑化」につきましても、その効果が高く評価されていますので、実施に向けて検討していきたいと思っております。地球温暖化対策は、私たちに課せられた大きな課題ですので、ぜひ皆さんにリーダーとなっていただき、熊谷市全体で取り組みが行われるようお願いいたします。

議席番号 5 番 大原中学校 橋本 静 議員

緑のカーテンについて（部長答弁）

橋本静議員さんの「緑のカーテン」についてお答えします。

壁面緑化に関しましては、平成 17 年よりモデル事業として、中央公民館や青少年ホームなどで実施してきました。

また、今年度は小中学校においても、ネットを張って、アサガオやゴーヤなどによる壁面緑化に 32 校で取り組んできました。

橋本さんからご提案のように、緑のカーテンは、植物の葉で日差しを遮り、葉の裏にある気孔からの水蒸気により周りの温度を下げ、涼しさを感じることが出来ます。このため、種から育てたみどりのカーテンができれば、環境学習として非常にすばらしい取り組みになると思っております。緑のカーテンはそれぞれの学校に合ったやり方ができるので、工夫しながら引き続き行ってまいります。また、この取り組みを広めるために、多くの市民が集まるイベントで、アサガオやゴーヤの種を配る方法を検討していきたいと考えています。

議席番号 16 番 吉岡中学校 中島 はる名 議員

屋上緑化について（部長答弁）

中島はる名議員さんの「屋上緑化」についてお答えします。

屋上緑化は、壁面緑化とともに、暑さ対策として非常に有効な方法であることは、多方面からの実績により明らかです。

熊谷市でも屋上緑化については、導入に向けて先進都市の視察を行い、その方法や資材の研究を行っております。

屋上を緑化するためには、建物の強度について検討したり、みずやりの方法や屋上の防水対応を必要とします。

それらの条件がクリアできる施設から設置できるように進めていきたいと

考えています。壁面や屋上の緑化を推進するためには、身近にできることとして、皆さんの家庭で、緑のカーテンや、ベランダの緑化、庭園の緑化などに取り組んでいただくことが効果的であると考えますので、協力をお願いします。

○ 質問番号7番 建設部関係（市長答弁）

栗原遼大議員さん、加藤有里香議員さん、須永明日香議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは副市長、担当部長からお答えします。初めに、栗原さんと加藤さんから道路に関する質問がありました。熊谷市は、合併して20万人の都市となりました。

市域全体がバランスよく発展するためや快適で安全な暮らしを支えるうえで道路は重要な役割を持っています。また、災害時の避難路としての利用や、ヒートアイランド対策など、環境への配慮も求められています。私は、日頃ハートフルミーティングでもお話していますが、地域住民の方々の理解と協力を得ながら、行政と協働して道路の整備や、適切な時期に必要な維持管理を行い、きれいで安心安全な道路環境づくりを進めて行きたいと考えています。

次に、須永さんからは公共施設の耐震強度と安全についてですが、公共施設は、災害時の避難場所として多くの施設が指定されています。そのため、再点検した結果に基づき、安全対策が必要な施設については、計画的に施設修繕に取り組んでいます。

災害は、いつ起こるかわかりません。道路の維持管理もそうですが、災害時には、熊谷市だけでは対応しきれないことが多くあると思いますので、日ごろから災害に備えた住民参加と協力が必要だと考えています。

皆さんも災害時に迅速に避難できるよう、家族の方々と共に避難路、避難場所を事前に確認しておいてください。熊谷市も、災害に備えた施設の安全確保と共に避難路の整備、市民参加の体制作りを進めていきたいと考えています。

議席番号23番 大幡中学校 栗原 遼大 議員

「かめの道」の利用について（副市長答弁）

栗原遼大議員さんの「かめの道」の利用についてにお答えします。

かめの道は、昭和58年5月31日に廃止された東武妻沼線の跡地を有効利用するため、東武鉄道から土地を借りて道路や公園として整備を進めてきました。

大原地区の第2北大通線が交差するところから熊谷駅方面は、公園として整備が終わっており、中奈良地区の県道太田熊谷線から利根川までは、両側に歩道がある、道路として整備されています。

栗原さんの大幡中学校付近では、道路として歩道部分までが整備されています。車道については、メモリアル彩雲付近まで開通している第2北大通線が、かめの道と交差するところまで整備されないと自動車交通をスムーズに通すことができません。

現在、第2北大通線の用地の買収を進めていますので、その整備にあわせてこれから、車道部の整備も進めていきます。

この道は、熊谷市の中心市街地と妻沼地区の交流を推進するためにも重要な役割を担いますので、早期の開通を目指して、事業を進めて行きたいと考

えています。

議席番号 25 番 大里中学校 加藤 友里香 議員

道路の除草について（部長答弁）

加藤友里香議員さんの「道路の除草について」にお答えします。

熊谷市内の道路は市道と国道、県道を合わせて約 2,450 km で、熊谷市が管理している市道は、約 2,250 km となっています。熊谷市では、貴重な予算を大切に使い交通量の多い路線や通学路等を中心に見通しが悪く、危険な箇所を年に 2 回から 3 回計画的に除草を行っています。なお、県道を管理する埼玉県では、熊谷市と同じような場所についての除草は、年 2 回とのことでした。また、夏場の除草回数については、これ以上増やすことは、難しいことから、通行上支障となる場合や通学路等で見通しが悪く安全が確保できない場合等、現場の状況をよく見て、適切な時期に除草を行なうよう心がけており、これからも心配りしていきたいと思っております。ところで、日本列島の縦断距離は約 3,000km であり、市で管理している道路の距離をこの数値と比べていただければ、大変な長さであるということが、想像していただければと思います。これらの除草について、熊谷市がすべてを行なうことは、現実的に難しいことから、原則として、道路に面している土地の関係者の皆さんにお願いをしているところです。皆さんにも地域に目を向けていただき、安心安全で美しい生活環境にしていくために、お互いに協力していきたいと思っております。

議席番号 28 番 妻沼東中学校 須永 明日香 議員

公共施設の耐震強度について（部長答弁）

須永明日香議員さんの「公共施設の耐震強度について」にお答えします。耐震強度は建物の地震に対する強さで、耐震性能ともいわれますが、その考え方は建物を建てる際の基本となる建築基準法において「震度 5」程度の地震ではほとんど被害がなく、「震度 6, 7」の大地震で倒壊しないこととされています。この法律は 1981 年(昭和 56 年)に改正があり、新耐震基準とよばれる新たな耐震に関する考え方が導入され今日に至っています。この新耐震基準以前の建物は過去の大地震でも大きな被害を受けていることが分かっています。現在の建物は、この新耐震基準を満足するよう設計を行い、又、この基準以前に建てられた建物のうち耐震性を満たさない建物も耐震化について取り組む必要があります。

特に避難施設となる建物や災害時の拠点となる施設・建物は、国の基準では耐震性能を割り増しした、より安全な建物となるように決められています。熊谷市が行っている学校施設の耐震化においても、この割り増しをした設計によって実施しており、学校以外の公共施設についても同様です。須永さんの妻沼東中学校も昨年、校舎の耐震補強工事を行い、安全な建物になっています。新耐震基準以前の建物の耐震化は不可欠で国などでも耐震化の促進を図るための基本方針を定めています。又、中国の四川大地震

や先の岩手・宮城内陸地震などを踏まえて、学校施設を始めとする建物の耐震化に必要な費用面での補助を手厚くするなどこれまで以上に早い時期に終了する目標を掲げており、熊谷市も国・県と連携・協力しながら耐震化に取り組んでいるところです。公共施設は災害時の避難場所ともなり、安全・安心な施設であるよう地震の被害を可能な限り小さくとどめることが重要でありますので、皆さんが安心できるよう耐震化を進めていきたいと考えています。

○ 質問番号 8 番 教育委員会教育総務課関係（市長答弁）

鈴木秀康議員さん、宮本一樹議員さん、瀧瑞穂議員さん、滝本亜美議員さん、赤石真奈美議員さん、野村和生議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、教育長からお答えします。

鈴木さんの「冷水機の設置」については、熱中症の防止の点からもよいと思います。ただ、皆さんが、冷たいものをとりすぎないなど、管理の面での心配もありますので、こうしたことも含め検討していくのがよいと思います。

宮本さんの「校舎のバリアフリー化」については、現在も、各学校で少しずつ取り組んでいます。また、体育館の改築にあわせて、バリアフリーの考えを必ず取り入れて造るようにしています。

瀧さんの「体育館の建て替え」については、現在、学校の耐震化にあわせて、古い体育館から、順次建て替えができるようがんばっています。去年と今年で3校、建て替えを行っています。

滝本さんの「校庭の整備」については、各学校で校庭の周辺の状況などが違いますので、その学校に適した水はけ解消の工事方法が必要です。

三尻中学校は、流域貯留という方法を考えていますが、もう少しですので待っててください。

赤石さんの「テニスコートの新設」については、校庭でいろいろなスポーツができ、交流が図られるのが良いと思います。ほかのスポーツの利用に支障がないよう学校で話し合ってみるのもよいと思います。いずれにしても、今は皆さんでお互いに、楽しく、仲良く利用してください。

野村さんの「太陽光発電システムの学校への導入」については、私も太陽光発電システムは、地球温暖化などの問題に役立つよい方法のひとつだと思います、体育館の改築に合わせて導入しています。これからも、このシステムの研究が進み、導入のメリットが大きくなれば、さらに多くの導入について考えてみたいと思います。

議席番号 4 番 富士見中学校 鈴木 秀康 議員

冷水機の設置について（教育長答弁）

鈴木秀康議員さんの「冷水機の設置について」にお答えします。

皆さんご存知のとおり、熊谷市では、昨年8月に40.9度を記録した直後、職員から暑さ対策に対するアイデアを募集し、今年度は、「あっぱれ・冷ませ・学校花緑いっぱい事業」として、学校では緑のカーテンや草花の栽培など実施しています。

また、学校の暑さ対策として平成17年度と平成18年度にすべての普通教室に扇風機を設置し、平成19年度は、すべての学校の図書室に空調設備（エアコン）を設置しました。冷水機の設置についてですが、現在、冷水機を独自に設置している学校は、小学校3校、中学校8校でございます。本市の水道水は、飲み水として良質でおいしいという評価を受けていますので、夏場の熱中症予防のための水分補給に使用することは、よいことだと思います。また、現在、学校に水筒で飲み物を持参したりして、対応している人もいま

す。今後は、冷水機の管理のあり方などについても検討してみたいと思います。

議席番号6番 大原中学校 宮本 一樹 議員

校舎のバリアフリー化について（教育長答弁）

宮本一樹議員さんの「校舎のバリアフリー化について」にお答えします。

学校施設は、障害の有無にかかわらず、皆さんが支障なく学校生活を送ることができるよう、また、地震等の災害時の応急避難所としての役割等もあり、多くの人たちが利用できることも想定してつくらなければならないと考えています。そのため、体育館の建替えの時には、バリアフリーの考え方を取り入れて建築しています。校舎においても、スロープや手すりを設置したり、トイレを洋式化するなどして、誰にでも利用しやすい学校になるようバリアフリー化に取り組んでいます。

宮本さんの通う大原中学校では平成 19 年度に東校舎の昇降口の段差解消を図りました。これからも引き続き、多くの皆さんが安全に、そして快適に利用できるよう学校施設のバリアフリー化に取り組んでいきたいと思ひます。

議席番号14番 中条中学校 瀧 瑞穂 議員

体育館の建て替えについて（教育長答弁）

次に、瀧 瑞穂議員さんの「体育館の建て替えについて」にお答えします。

体育館は、授業や部活動に利用され多くの児童・生徒がバレーボールやバスケットボールをはじめとするスポーツを行い、心身の健全な発達に役立っています。このような中、体育館には、建築後年数が経過し、老朽化しているものもありますので、補修を行い、利用に支障のないようにしています。また、建替えは、平成 19 年度には、奈良中学校と江南北小学校の体育館の建替えを行い、今年度は、大麻生中学校の体育館の建替工事を実施しています。これからも、財源の問題もありますが利用者の安全を最優先して、建替えも考えていきたいと思ひます。

議席番号19番 三尻中学校 滝本 亜美 議員

校庭の整備について（教育長答弁）

次に、滝本亜美議員さんからの「校庭の整備について」にお答えします。

熊谷市の学校には、河川の急激な増水による水害を防ぐために、校庭に雨水を一時的に貯めてから河川に少しずつ放流するという機能を持った校庭があります。このような整備をしますと、大量の雨が降った時には、一時的に水が貯まりますが、少しずつ排水や浸透させていく機能になっていますので、結果的には水はけが良い校庭となります。

滝本さんの通う三尻中学校については、今年度、この整備をするための調査や設計を行っていて、近いうちには、水はけのよいグラウンドが完成できるように事務を進めています。

議席番号 31 番 小島中学校 赤石 真奈美 議員

テニスコートの新設について（教育長答弁）

次に、赤石真奈美議員さんからの「テニスコートの新設について」にお答えします。

赤石さんの通う小島中学校は、小学校と校庭などの施設を一緒に使用していることから、ときには不便を感じることもあるかと思えます。赤石さんが提案されました、校庭の外にテニスコートを設けることもよいことだと思いますが、新設するには、テニスコートを整備する工事費や新しく土地を購入するための費用などが必要となります。

熊谷市の学校施設は、現在、耐震補強など災害時への対応や長年の使用で老朽化した施設の改修などを優先して整備を進めていますので、テニスコートの新設は、現時点では難しい状況ですが、小中学校が併設していることは、それぞれの交流が図れるなど他の学校にはないよい点もあります。これからも小学生と中学生がお互いに仲良く協力しあって、一緒に校庭を使用させていただきたいと思っています。また、隣接地で土地を貸していただくことが可能かどうかも検討してみたいと思います。

議席番号 32 番 小島中学校 野村 和生 議員

太陽光発電システムの学校への導入について（教育長答弁）

次に、野村和生議員さんからの「太陽光発電システムの学校への導入について」にお答えします。

現在、地球温暖化などの問題が深刻化している中で、太陽光発電システムは、自然エネルギーを利用し電力を発電することで、二酸化炭素排出を削減することや、環境教育に役立つなど、地球温暖化防止への有効な対策の1つであると考えています。

そこで、熊谷市では、昨年度、2校の体育館の改築に併せて、体育館の屋根に太陽光発電システムを設置しました。また、今年度も1校の体育館の改築に併せて設置する予定です。このように、建物の改築と同時に太陽光発電システムを設置していくことは、配線や配管工事などを一括して工事できるため工事費が抑えられるなど、効率のよい方法だと思っています。したがって、これからも引き続き、体育館の改築に併せて太陽光発電システムを設置していければよいと思っています。

○ 質問番号 9 番 教育委員会学校教育課関係（市長答弁）

太田青志議員さん、大島安梨沙議員さん、橋本一輝議員さん、金谷一希議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、教育長からお答えします。

皆さんからの質問は、学校での取組について真剣に考えての質問であり、市長として大変心強く感じました。

太田さんの「花壇コンテスト」については、とてもよい提案だと思います。他の学校のよい取組を参考にし、今まで以上にやすらぎと潤いのある学校にして欲しいと思います。

大島さんの「学校 3 学期制の復活」についてですが、現在、2 学期制の中で、皆さんの学力は、伸びていると聞き、大変うれしく思っています。1 時間 1 時間の授業を大切にし、じっくりと学習に取り組むことで、さらに学力の向上を図って欲しいと思います。

橋本さんの「学校 2 学期制」についてですが、「学校 2 学期制」は、前期と後期という長い期間で、ゆとりある計画のもと、学習に取り組めるという利点があります。また、よりきめ細かな評価やテストの機会が増え、いっそう勉強に頑張っていけることも利点と聞いています。

金谷さんの「中学校における地域間交流」については、まず、皆さんが熊谷市のよい所をたくさん見つけようとしていることをうれしく思います。熊谷市について、さらにたくさんを知って欲しいと思います。

私も、皆さんの熱意に答えて、熊谷市の教育をさらに充実させるため頑張っていきますので、皆さんも、大いに、勉強に、運動に頑張ってください。

議席番号 15 番 吉岡中学校 太田 青志 議員

学校の花壇コンテストについて（教育長答弁）

太田青志議員さんの「学校の花壇コンテスト」について、お答えします。

人は花が咲くと心が和み、自然と笑顔がこぼれてきます。花のある中で生活していると、人は人に優しく接することができるようになります。

熊谷市では、今年度から「あっぱれ熊谷流！学校花緑いっぱい運動」を実施し、各学校ごとに緑のカーテンを作ったり、花壇に草花を植えたりする活動をしてもらっています。吉岡中でも、ハナミズキやカキの苗木を環境委員会のみなさんが中心となって植えてくれました。

学校の花壇コンテストについて提案をいただきました。大変よい提案ですので、生徒のみなさんが主催のコンテストを企画してみたいかがでしょうか。賞状などは、教育委員会で用意してもよいと思います。

議席番号 17 番 別府中学校 大島 安梨沙 議員

学校 3 学期制の復活について（教育長答弁）

大島安梨沙議員さんの「学校 3 学期制の復活」についてお答えします。

各学校では、2 学期制の中で、いわゆる定期テストの間にも、小テストや実力テストなどを実施し、学習の到達状況を生徒や保護者の皆さんに知らせ、

自らの学習の課題をはっきりさせ目標を持って授業に望むことができるようにしています。そして、当然のことですが、どのテストも通知票の評定に反映されています。3学期制よりもテスト範囲も短くなり、それだけ勉強時間が増えたはずですが、教育委員会としては、このような2学期制のよさを活かし、知・徳・体のバランスのとれた学力をさらに身に付けてもらうよう、皆さんを支援していきます。がんばってください。

議席番号33番 江南中学校 橋本 一輝 議員

学校2学期制について（教育長答弁）

橋本一輝議員さんの質問「学校2学期制について」お答えします。

熊谷市が、すべての小・中学校で2学期制を実施しているのは、市内の小・中学校の皆さんが、知・徳・体のバランスのとれた学力をさらにつけてほしいという願いが強いからです。

3学期制より、2学期制の方が授業時間数が増えました。また、勉強につまずいたときにその補充にあてる時間も増えました。さらに、新しい通知票に変えて、学期の途中の夏休みや冬休みの前に、学習の目標を立てたり、自分の学習のつまずきを解決したりできるようになりました。これから始まる国の新しい教育計画にもほぼ対応できています。その結果として、これまでの学力調査などにおいても、2学期制を早くから実施している学校から順に、成績が良くなっていることもわかってきました。

これからも、2学期制の利点を生かし、熊谷の児童生徒の皆さんが、さらにがんばってくれるよう応援していきます。

議席番号29番 妻沼西中学校 金谷 一希 議員

中学校における地域間交流について（教育長答弁）

金谷一希議員さんの「中学校における地域間交流」についてお答えします。

「豊かな流れがはぐくんだ、みどりの大地に風光る」「桜に心はずませて、祭りの太鼓に勇み立ち」これは皆さんのよく知っている熊谷市歌の一節です。熊谷市には、それぞれの地域に、全国に誇れるものが、たくさんあります。

私も市内の中学生同士が自分たちの地域のことを話し合える機会があればよいと思います。ぜひ、生徒の皆さんで、その機会を計画してみてください。私たちも大いに応援したいと思っています。

○ 質問番号 10 番 教育委員会保健体育課関係（市長答弁）

加納大樹議員さん、井原黎二議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは教育長からお答えします。

はじめに、加納さんのスポーツ振興についてですが、熊谷市は、平成 18 年 7 月、スポーツ熱中都市を宣言しました。その合い言葉は、「実践」「応援」「協力」です。中学生の時代は、まずスポーツや部活動に積極的に取り組む「実践」をしてほしいと思います。次に、スポーツ振興の施策として多く開催されるトップレベルの試合を大いに「応援」してください。さらに、機会があったらスポーツに関するボランティア等にみんなで「協力」してみてください。私も、「実践」「応援」「協力」の合い言葉を大切にしながら、広くスポーツの振興に取り組んでいきたいと考えています。

続いて井原さんの通学路についてですが、熊谷市では、みなさんが安心して通学ができるように、通学路調査をはじめ、交通安全の面から路側帯や道路の補修、防犯の面から街灯の設置等の対策をとっています。今後も、様々な角度から通学路の安全対策を推進しなければならないと考えています。こうした通学路の整備や安全な環境づくりもとても大切ですが、皆さん自身が、交通ルールをしっかりと守り、事故に遭わないよう行動することが何より大切なことだと思っています。

議席番号 7 番 熊谷東中学校 加納 大樹 議員

熊谷市のスポーツ振興について（教育長）

次に、加納大樹議員さんの「熊谷市のスポーツ振興について」にお答えいたします。

熊谷市は、「ラグビータウン」として、様々な事業に取り組んでいます。小・中学生への普及としては、ラグビースクールの開催や体育の授業へのタグラグビーの導入、タグラグビー大会の開催等により、小さい時からラグビーに親しむ機会を作っています。また、市内の全小中学校から応募された優秀作品を選んで、ラグビー公式戦ポスターを作製しています。さらに、市民がラグビーの楽しさを味わうという観点から、全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会の開催をはじめ、日本及び関東ラグビーフットボール協会の公式戦など、トップレベルの試合を観戦する機会を提供しています。特に、平成 12 年度から開催している「全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会」は、青少年があこがれ、目標とするラグビーの拠点熊谷として、高校生ラグビーに夢と希望を与えるものとなっています。今後も、この全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会を核として、ラグビータウン熊谷のイメージを大切にしながら運動を盛んにさせ、広くスポーツの振興に取り組んでいきます。

議席番号 21 番 奈良中学校 井原 黎二 議員

通学路の交通安全について（教育長答弁）

次に、井原黎二議員さんの「通学路の交通安全について」にお答えします。

みなさんが明るく、元気よく、安全に登下校することは、何よりも大切な

ことであると考え、教育委員会では、毎年定期的に通学路調査を実施しています。

井原さんからご指摘いただいた信号機設置要望箇所は、学校から報告を受けている地点と同じであり、すでに埼玉県熊谷県土整備事務所をはじめ、熊谷警察署及び熊谷市役所の関係各課などに設置についてお願いしてあります。早期に設置をしてもらえるよう改めてお願いしていきたいと思います。今後も引き続き、通学路の安全について、学校・PTAの協力のもとに調査を実施し、みなさんが安心して通学できるよう、努めていきたいと考えています。